



子供たちに伝えたい美しい日本語

石井式 育み文庫

絵／山村アンジー
題字／楽書家・岐葉

稲むらの火





「これはただ事ではないぞ。」
とつぶやきながら、五兵衛は家から出ました。

今の地震は、あまりはげしいものではありませんでしたが、
長いゆっくりとした揺れ方と、腹に響くような地鳴りは、
年輩いた五兵衛も、今まで経験したことのない不気味なものでした。

不気味

五兵衛は、高台にある自分の庭から、心配そうに下の村を見下ろしました。

ところが村人たちは、今の地震をさほど気にかけず、豊年を祝う宵祭よいまつりの支度を続けているようでした。

五兵衛は、ふと海に目をやって、思わず息を呑みました。大波が風に逆らって、沖へ沖へと引いて行き、今まで見る事のなかった海の底が、目の前に広がっていくではありませんか。「大変だ。津波が来るぞ。」

このままでは四百人の村人が、ひと呑みにされてしまう。」

沖

逆らう

豊年